



## あさかわ まちづくりニュース

長野市浅川地区住民自治協議会 まちづくり計画推進委員会

令和4年10月1日 第53号 委員長・宮下文夫 編集・北條昭吾

### アサギマダラが9月9日「フジバカマ苑」で2匹が初飛来

沖縄・台湾まで移動する「旅する蝶」として知られるアサギマダラが9月9日「浅川ダム・フジバカマ苑」に2匹初飛来しました。



浅川ダムをバックのアサギマダラ

植物の蜜を吸うのは、花蜜に含まれる「ピロジジナルカイド」という物質を体内に取り入れます。それは異性を誘うフェロモンです。アサギマダラのオスがメスを交尾に誘うにはフェロモンが必要とされます。また「ピロジジナルカイド」は毒性があり身を守る効果があると言われています。

アサギマダラは天気が良く南風が微風の午前中によく見られます。

アサギマダラのアサギは「アサギ色」の事で「明るい空の色」を指します。アサギマダラのオスとメスは羽の裏を見ると後ろの翅（シ・羽根）に黒い斑紋があるのがオスです、メスにはありません。

アサギマダラがフジバカマやヒヨドリバナにとまり、植

### 「チームフロンティア・浅川」35人が3日間で3か所の草刈り！

#### 真光寺斜面、フジバカマ苑、ブランド薬師参道入口・ダム間

浅川地域のまちづくり活動をしているボランティア組織「チームフロンティア・浅川（竹村美岐雄会長）」は9月4日（日）真光寺南の斜面に16人が参加。9月6日（火）は「浅川ダム・フジバカマ苑」に8人が参加。9月11日（日）はブランド薬師参道入り口と浅川



真光寺に集まったメンバー

ダム間、裏参道入り口に11人が参加、3日間合計35人が参加しました。

9月4日（日）16人が真光寺の湯谷大橋・ループ橋間南斜面の草刈りをしました。



真光寺の斜面で草刈り

刈りは普段以上の力仕事になり難儀しました。

春先に刈り切れずに残った所は木が3m以上にも伸び、つたなどが絡まり草・木などの成長のすごさを見せつけていました。この斜面には花モモ48本が植えられ実が垂れ下がっていました。会員は花モモの枝を間引きし枝を整えていました。

フジバカマ苑では9月5日50cm位に伸びた草を自走式草刈り機で刈り、9月6日会員8人が参加してフジバカマの根元にある刈り残った草を刈払機で刈りました。



ブランド薬師表参道入り口の草刈り



フジバカマ苑の草刈り

9月11日会員11人が参加して、ブランド薬師表参道入り口と入口付近・浅川ダム間・裏参道入り口を刈払機で刈りました。道路では柵に絡まったつる草を刈るのに時間がかかりました。

## 県指定希少動植物ゴマシジミの評価検証打ち合わせ会議開催

8月31日県・長野市霊園・浅川地区住自協の3者は、長野市霊園に生息する蝶・ゴマシジミが県の指定希少動植物の対象種であることから今後の保存保護活動に向け5年ごとに評価検証する打ち合わせ会議を開催しました。



県・霊園・住自協3者の打ち合わせ

会議には県自然保護課自然保護係宮脇優担当係長他1名、県環境保全研究所から自然環境部長須賀丈博士、同自然保護課生物多様班畑中健一郎主任研究員、県生物多様性保全アドバイザー中村寛志信州大学名誉教授農学博士、長野市霊園徳永昭行前所長。浅川地区住自協下村守昭活性化推進員、同まちづくり計画推進委員会北條昭吾が参加しました。

評価検証は「長野県希少動植物保護条例」に基づき指定希少動植物であるゴマシジミの保護回復する事業計画です。

保護回復事業計画の評価検証では取組内容と種の現状、問題点を把握し「評価」「検証」「確定」を行う。

「評価（自己評価）は保全団体（保護回復実施者「霊園・浅川地区住自協」）と県自然保護課で行う。

評価に基づき県環境保全研究所が専門家の意見を聞き「検証」自然保護課において継続か見直しか確定。見直しだと環境審議会に諮問、専門委員会付託・答申、環境審議会・策定、変更後の保護回復事業計画となるとの概要が示されました。



ゴマシジミが生息する霊園視察

会議では保護回復事業計画の質問だけでなく、5年間のゴマシジミ保護育成活動での疑問、「蟻の生態・ゴマシジミが蟻の巣に入る時期・ススキを刈る時期」「市の保護活動への関与の仕方」など専門家の意見をいただきました。

参加者は霊園内のゴマシジミ生息地を訪れ「ゴマシジミの食草・ワレモコウの開花が遅れゴマシジミがワレモコウに卵を産み付ける事が出来ない状況が見受けられる」「ススキが繁茂しすぎてワレモコウが減っている」「早く咲くワレモコウなど植栽を増やしてゴマシジミを増やしたい」など現状を説明しました。

## 『ジャガイモとれた』浅川小3年児童が坂中でジャガイモ収穫体験

浅川小3年生42人は、4月坂中の畑に植えたジャガイモの収穫体験を8月26日(金)に行いました。掘ったジャガイモをビニール袋一杯に収穫した児童は歓声を上げて喜んでいました。



手袋でジャガイモ掘る児童

ジャガイモは4月21日に児童1人5個ずつ手で植えられ、収穫する今日まで坂中地区の方々草取り・土寄せなどを行い世話をしてきました。

収穫を前に坂中の笠原清一さんから「ジャガイモの収穫にあたっての注意点」の説明がありました。収穫体験を楽しみにしていた児童は手袋をした手で土を掘ると、大きなジャガイモが次から次と出てきます。児童の中には「63個とれた」

「75個とれた」と夢中になって掘り出していました。収穫体験を手伝いに来た坂中の住民17名は、児童たちが喜ぶ顔を見て満足の様子でした。児童たちは持ちきれないほどのジャガイモの袋を両手で抱えて返りのマイクロバスに乗りこみました。

## 長野市霊園のゴマシジミ、37匹が今年最高の飛来数！

長野市霊園に生息する貴重なチョウ・ゴマシジミは7月30日に飛来、1日当りの確認数は8月16日37匹が最高で順調に増え生息しているようです。

保護活動を始めた2016年は1日当り確認数7匹でしたが2017年12匹、2018年30匹、2019年18匹、2020年33匹、2021年39匹、2022年は37匹となりました。